

四季の歌

俳句・短歌教室の詠歌紹介

「戦争を知らない子供」と唄われし我らも老ひたり平和の中で
秋の日は明るく差せば切り張りの障子にさくらもみぢの賑ふ
孫等育ち柱に残る横線は亡父の残せし鉛筆の跡
コンサート果て、やさしき良夜なる余韻抱きしめ家路を辿る
背をこすり夏毛を棄てて飼犬は身ぶるい一つ衣替えなり
さらめきてダム水面の夕光は長く尾を引く秋立つ風に
秋冷えの広田の稲刈株に早もひこばえ露を宿せり
騒ぎつつ群れつつ帰らむ椋鳥を茜に染めて夕陽の射しぬ

柳原初子選

赤池隣保館句会

小夜しぐれ遠くになりて夢心地
風吹くや落葉かさこそ美術館
実南天うすき山日を照り返す
初雪に福智の高根際立ちぬ
光陽の童謡歌碑や笹鳴ける
冬の夜や勉強足らず励まねば
この里に老いてゆくかな朴葉散る
信号を走りて渡る十二月
わが歴史少し語りぬ古暦
発表会終り俄に風邪心地
久を師の詠みたる山の眠るかな

池田一步選

千手 弘子
大久保幸子
小場 妙子
丸山 鈴子
熊谷カツミ
吉田 弘
石井 恵子
水上 翠人
米原ふさ枝
芳野もと子
池田 駒女

福智町金田公民館俳句教室

天狗面鼻を反らせて冬に入る
修験者の祈り欲す冬の山
図書館の沈黙に咲く室の花
小春日や極楽顔の婆と猫
用心をせよと荒神旅に出る
旬菜と今炊きたての今年米
夕陽受け色づく樹々に神還る
冬立つとそろそろ鍋の恋しけり
うそ寒や聞こえぬふりも生きる道
冬支度未だ此の世に長居して

岩井鬼童選

長副美恵子
西田 真美
建部三由紀
松岡 蒿枝
今井三千代
安田 健一
桂 啓子
岩井ひさ幸
小野 美幸
加藤きみ子

方城句会

老木の紅葉極まり城趾かな
軍港を見降す丘の小六月
窓外に延々続く冬田かな
一枝にあるしづけさや返り花
押車畦に女の大根引
政争のすさまじき世や霰散る
福智嶺の初冠雪を仰ぎけり
振り向くやビルの狭間に冬の月

池田一步選

長尾 冴子
藤井耿之介
渡邊 一枝
尾崎 和子
木村 誠一
倉石嘉代子
白石 凡子
杉 フジエ

福智の風

▶「爆弾低気圧」や「観測史上最低の気温」など、新聞に踊る文字を見るだけでも凍えるような寒い日が続いています。冷えた体を温めようと、湯船と一緒にあった息子が一言。「はあ〜、あったかすぎる〜(5秒かけて読んでください)」。4歳児の口から飛び出した、近年まれにみる名言に、思わず風呂で大爆笑。心も体も一気に温かくなりました。(相原)

▶11月23日にバルーンフェスタ取材しました。熱気球も素敵でしたが、ステージイベントも充実。初めて拝見するアイドルさんもいて、そちらが私の知っている曲をカバーしていたので、歌を口ずさんだりダンスの振りマネしたりしながらノリノリで撮影しました。これが仕事ではなくプライベートならなあ…と思う今日この頃です。(荒牧)



Pickup Topics

故郷の誇り 次世代へ

国内最大の炭鉱事故「方城大非常」から100年を迎えた12月15日に、町内の小中学校では大非常や炭鉱の授業を行い、大非常がルーツの「方城すいとん」を給食で提供しました。その取り組みの様子を写真でお届けします。



600人以上の犠牲者を出した日本最大規模の炭鉱事故「方城大非常」。それからちょうど100年を迎えた平成26年12月15日9時40分に、全ての炭坑殉職者をしのんで町内全域の放送で黙とうが呼びかけられました。

町内の小中学校8校では、黙とうで犠牲者に哀悼の意を表すとともに、今年初めて全校で大非常や炭鉱を通じた人権学習を行い、郷土の歴史や命の大切さを2024人の児童・生徒に伝えました。

この日の給食は「福智名物・方城すいとん」。大非常で親を失った子どもたちのため食材を持ち寄り向こう三軒両隣の精神で振る舞われたという、故郷の歴史と愛情が詰まったメニューです。さらに「大福おばちゃんのかしわ飯」「ミニトマト」ふく

ち☆リッチジェラート」など、福智の名産材料をふんだんに使った給食が出され、子どもたちが故郷の味をかみ締めました。

祈りと学び、そして食で故郷を心に刻み共有した子どもたち。この日行われたのは、先人たちの尊い犠牲と愛情が郷土の誇りとなつて、次の世代の心へと受け継がれていく福智ならではの授業でした。

4代にわたり大非常犠牲者を弔ってきた福圓寺の富永住職が伊方小を訪問。給食時間に児童と一緒にすいとんを食べながら「支え合って困難を乗り越えたからこそ、今の豊かな暮らしがある」と訴えかけました。